《平成28年度『確かな学力』研究推進校事業》

学びをつなげる

「思考力・表現力を身に付けた児童の育成」

－算数科における言語活動の充実を中心にして－

太田市立城西小学校

学びをつなげる取組

Ⅰ　教育課程の改善・充実

Ⅱ　指導体制の工夫（学びの環境）

Ⅲ　授業力の向上（校内研修）

Ⅳ　家庭との連携

学 力 向 上

Ⅰ　教育課程の改善・充実

１　基礎学力を身に付けさせる
「朝読書」と「基礎練習」

２　学力調査の実施・分析

・４月全国学力調査　６年

・５月標準学力調査（４５６年　理）

・１月標準学力調査（１～６年　国・算）

（４５６年　理）

Ⅰ　教育課程の改善・充実

1　基礎学力を身に付けさせる

・『朝読書』と『基礎練習』の時間

朝読書

基礎練習

Ⅰ　教育課程の改善・充実

２　学力調査の実施・分析（国語・算数）

・標準学力調査（１～６年）

・全国学力調査（６年）

〇正答率の低かった問題とその考察

〇観点別の考察

課題・・・・文章を読み取る力（国語）

文章題の題意を読み取り、正しく立式し解く力（算数）

Ⅱ 指導体制の工夫（学びの環境）

1 学習の基盤づくり『学習のきまり』

2 算数科におけるＴＴ指導・・・４・５年

3 専門を生かした教科指導・・・４～６年　理科

4 教科担当制の導入・・・６年

5 基礎学力を身に付けさせる
　放課後や長期休業中における補充指導

Ⅱ指導体制の工夫（学びの環境）

２ 算数科におけるTT指導・・・４・５年

Ⅱ 指導体制の工夫（学びの環境）

３ 専門を生かした教科指導・・・４～６年　理科

Ⅱ 指導体制の工夫（学びの環境）

４ 教科担当制の導入・・・６年

・2クラスで国語と算数を交換

・音楽専科

・理科専科・家庭科専科

思考力・表現力を身に付けた児童の育成
ー算数科における言語活動の充実を中心にしてー

1　今日的課題

①　「生きる力」を育む理念

②　思考力・判断力・表現力に課題

③　言語活動の充実

2　学校教育目標の具現化

社会の変化に対応して生きる、心豊かな児童の育成

3　本校の児童の実態

・図・式・言葉等を相互に関連させて自分なりに問題を解決でき、説明や話し合い活動に参加できるようになってきている。

・自分の解決方法を発表するには自信がもてない。

・友だちの考えのよさを気付くには至らない。

・文章問題の題意が読み取れない。

・答えの理由がポイント押さえた記述につながらない。

１・２年次の成果と課題

成果

・聞き手を意識しながら分かりやすく説明する児童が増えた。

・多様な考えや解決方法を発表する児童が増えた。

・国語科との関連から、自分の考えを整理し、根拠などを示しながら分かりやすく伝えようとする態度が見られた。

課題

・ねらい達成に向けた効果的な練り上げにつながらないことがある。また、一部の積極的な児童の考えや意見だけで進められてしまうことがある。

・適用問題までを含んだ授業の展開には不十分な面が見られた。また、個別の指導に生かしきれていない面もあった。

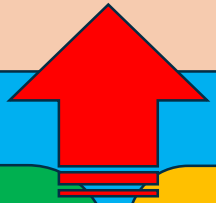
・問題が長文であると、正確に読み取ったり、必要な情報を選択したりできないことがある。

思考力･表現力を身に付けた児童の育成
ー算数科における言語活動の充実を中心にしてー

思考力・表現力を身に付けた児童

自力解決において、操作や絵・図・式・言葉などを使って自分の考えを表現し、

集団解決において、解決の方向性や方法について検討し、既習の知識・技能・考え方を活用しながら問題を解決したり、新たな知識・技能・考え方を習得したりしている児童



算数における言語活動

〇話す・聞く
　対話　説明　発表　検討

〇書く
　記録　感想　論述

〇読む
　表や図　資料　式などの読み取り

国語科との関連

〇相手意識

〇短く簡潔な表現

〇説明文の単元構想案作りと実践

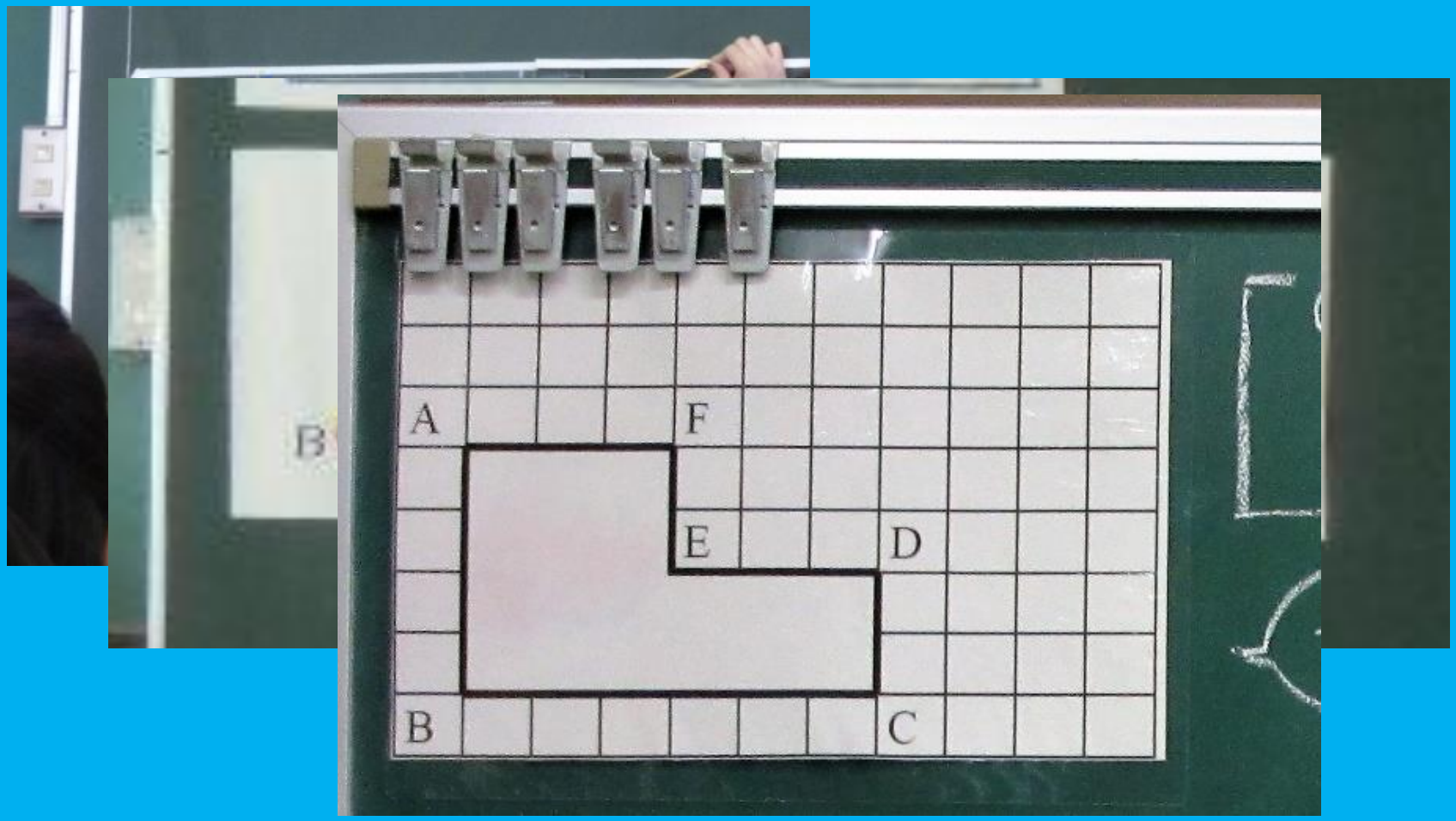
具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

①　課題の工夫

条件不足の課題　　葛藤場面のある課題

比較提示の課題　　多様な考えができる課題



具体的な取組

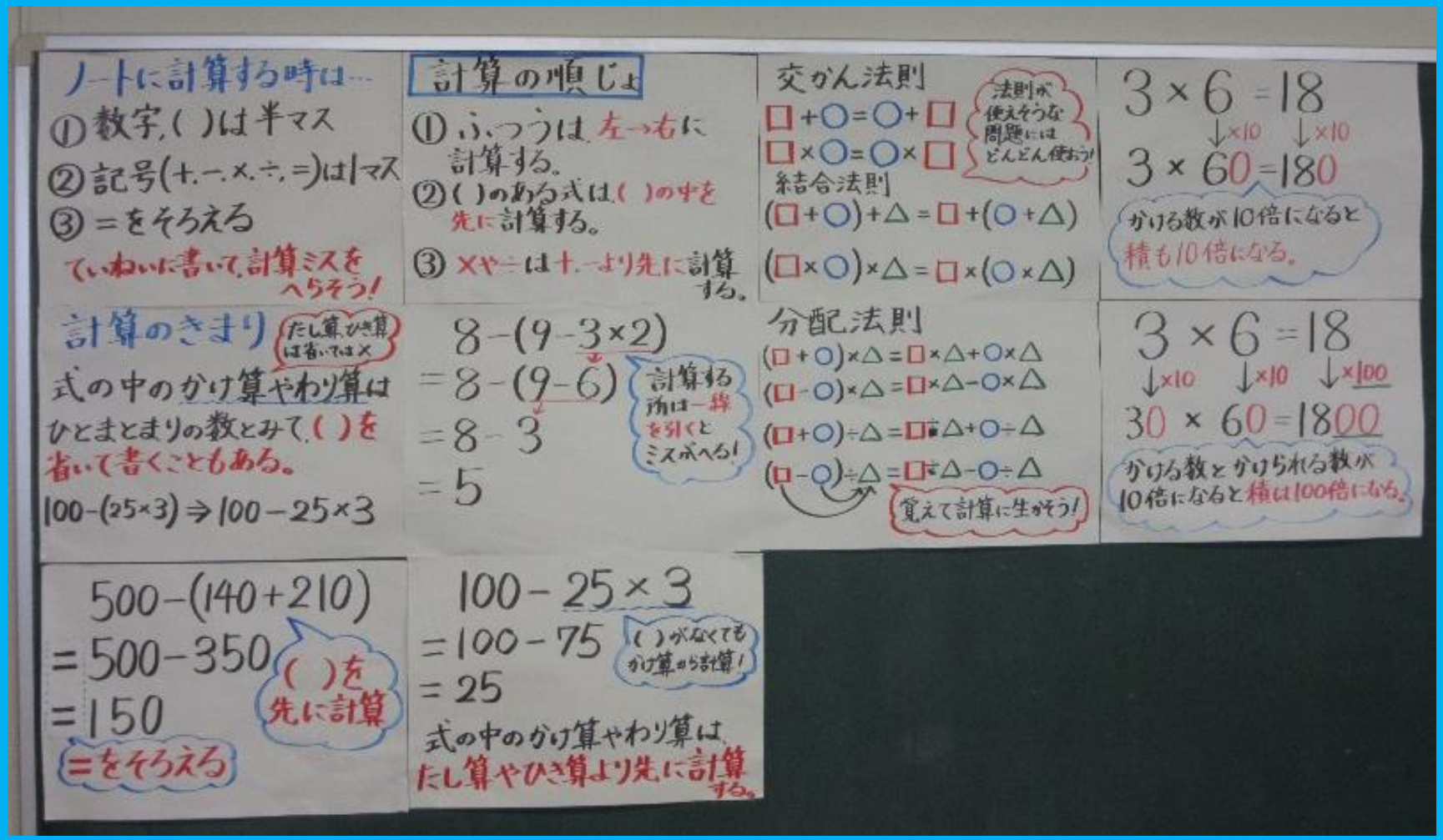
1　算数的活動を生かした言語活動

②　活用力の育成

具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

②　活用力の育成



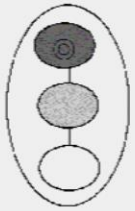
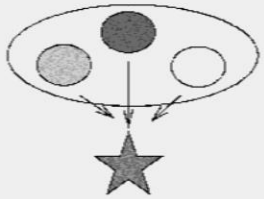
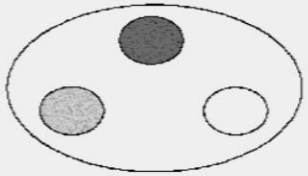
具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決

ねらいに応じた適切な視点で比較・検討させる

多様な考え方を比較・検討する場合

それぞれの方法に順序性が付き、**よりよい方法に気付かせたい場合**	それぞれの方法に順序性を付けず、**それぞれの方法の基になる考え方に気付かせたい場合**	それぞれの方法に**順序性が付かず、基になる考え方も異なる場合**
【序列化型】 簡潔性、明瞭性、正確性を視点 	【一般化型】 共通点や相違点を視点 	【独立型】 それぞれの方法のよさを視点 
それぞれ解決方法を理解し、根拠を基にしながらよりよい方法に気付き、よりよい方法で答えを求められるようになる。	**いくつかの方法の共通点を探り、問題を解くためのポイントをまとめられるようになる。**	**新しい考えを知り、いろいろな方法で答えを求めることができるようになる。**

参考：「はばたく群馬の指導プラン」実践の手引き

具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決

具体的な取組

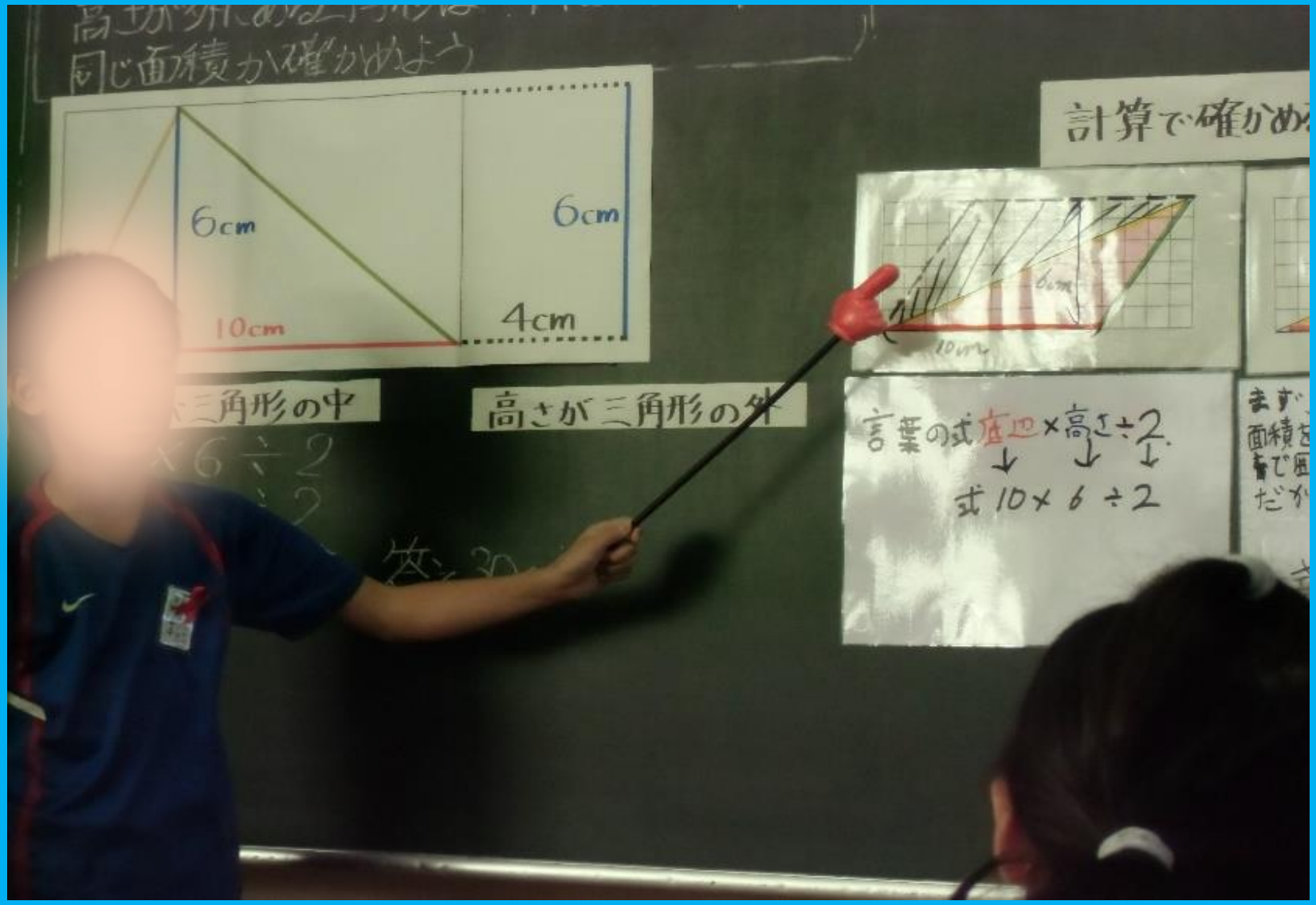
1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決

具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決



具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決

具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決

具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

③　算数的活動の効果的な活用　言葉や数・式・図を用いた集団解決

引き出したい考え方

「こんなきまりがみつかったよ」帰納

「前に習った～と同じになる」統合

「もし～だとすると」「条件を変えると」発展

「いつでも言えるのは～だよ」一般化

「よい方法は何かな？」明瞭、簡潔化

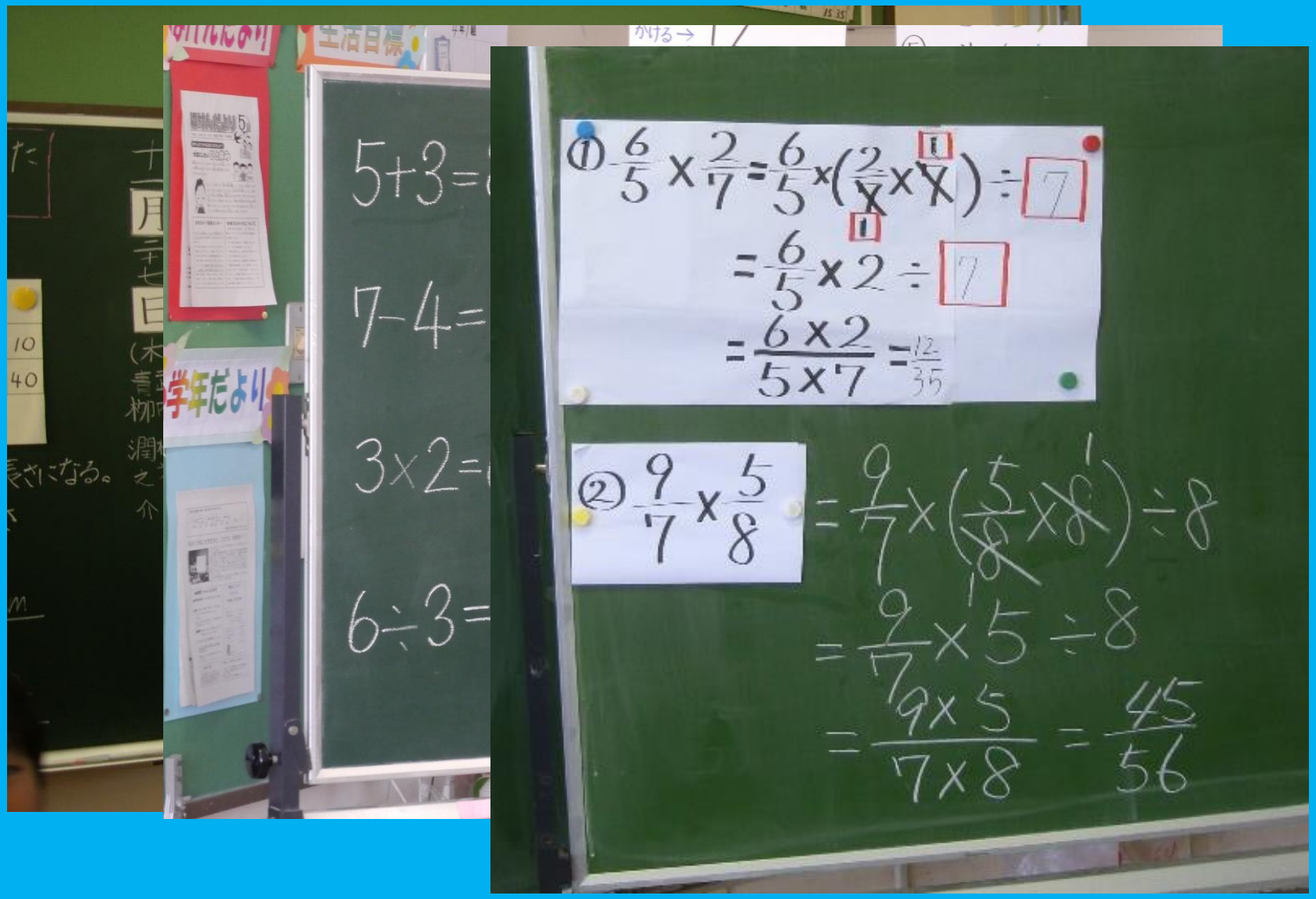
・考えを関連づける発問・投げかけ
・ポイントの明確化

自分の考えの
修正・まとめ

具体的な取組

1　算数的活動を生かした言語活動

④　適用問題



具体的な取組

2　国語科と関連を図りながら取り組む言語活動

・単元を貫く言語活動に迫るための単元構想案の作成・実践

4年

1　単元名　～紹介しよう　興味をもった地球の仲間～

2　単元の目標

科学読み物を読み、興味をもったことを中心に紹介するために、本の内容を引用したり、要約したりしてリーフレットを作ることができる。

（読むこと　イ、エ、カ　書くこと　ウ、カ）

3　評価規準

【国語への関心・意欲・態度】
・科学読み物を読んで、リーフレットを作って紹介したいという思いをもって、すすんで本を読もうとしている。

【書く能力】
・興味をもった地球の仲間について、紹介したいことを明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げてリーフレットにまとめている。

【読む能力】
・紹介する理由を説明するために必要な文や文章を要約したり、引用したりしている。
・自分が紹介したい本を、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。

【言語についての知識・理解・技能】
・科学読み物を読むために、辞書などを活用しながら読んでいる。

4　教材

5　主な学習活動（単元の指導計画：全１０時間）

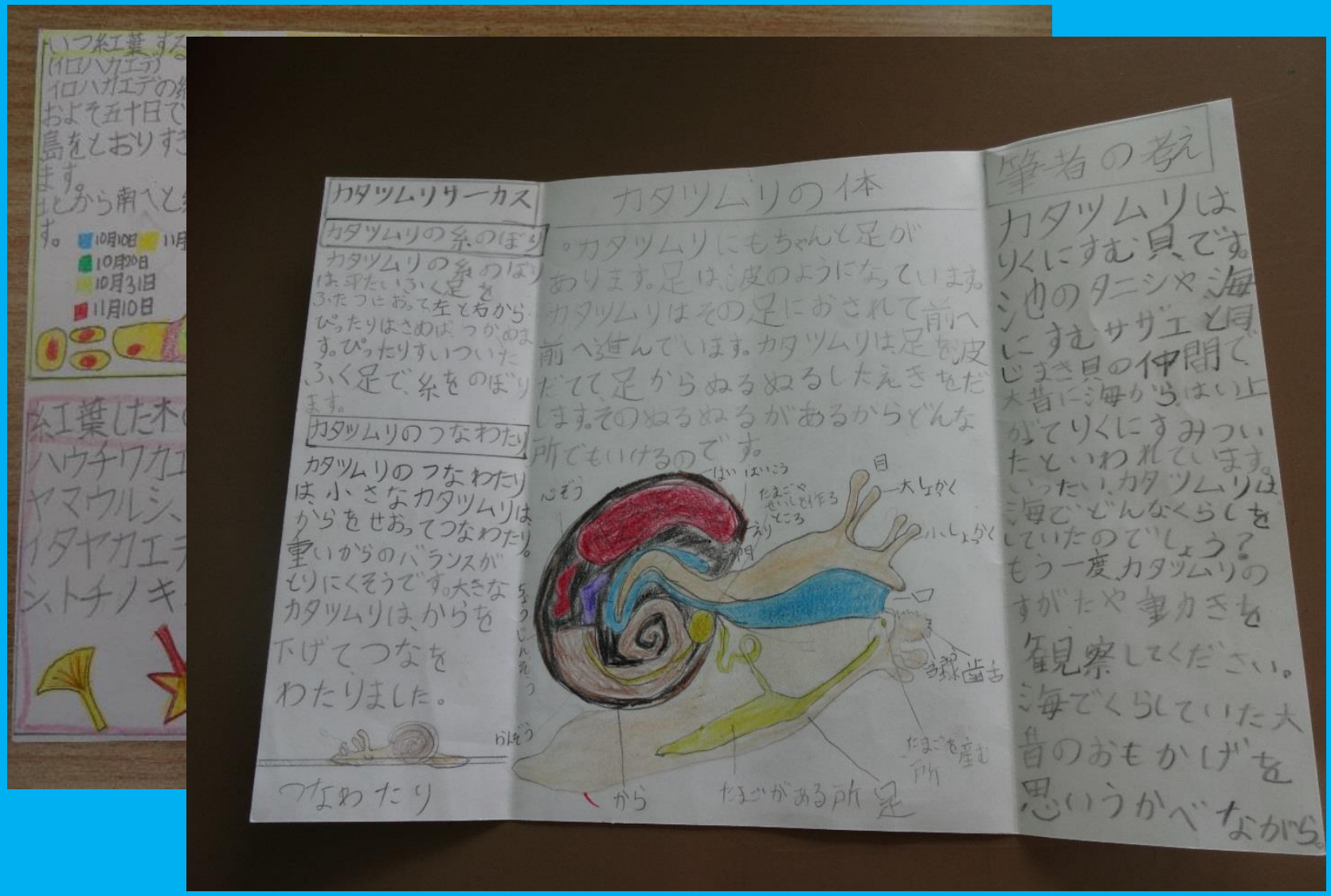
次	時	○目標　・主な学習活動		○指導上の留意点　☆評価（方法）
一	1	○教師のモデル教材を見て、『紹介しよう　興味をもった地球の仲間』というイメージをふくらませ、単元全体の見通しをもつことができる。 学習課題 地球の仲間には知られていないことがある！自分が読んだ科学読み物から、紹介したい地球の仲間についてリーフレットを作って、友達に紹介しよう。 ・「科学読み物読書コーナー」を活用して並行読書をする。	並行	○具体的な相手を設定して、伝えたい思いが高まるようにする。 ○関連資料を紹介したり、学級文庫にそろえたりして、図書資料に関心が高まるようにする。 ○図や表の用い方や、筆者の説明の進め方など、形式面にも目を向けてよいことを知らせ、リーフレット作りに生かせるようにする。 ☆学習のゴールである「興味をもった地球の仲間リーフレット」を作ることをイメージし、学習計画を立てている。 （観察・ノート）
二	2	○リーフレットを作って紹介するために、「ウミガメの命をつなぐ」を読んで、紹介したい内容を交流することができる。 ・初めて知ったことや驚いたことの文章を引用しながら相手に説明する。 【気付きの例】 ・ウミガメが長い旅をするのを初めて知りました。 ・名古屋港水族館の人たちが長年研究したのが、すごいと思いました。		○どの段落のどの文から興味をもち、初めて知ったり驚きを感じたりしたのか、教科書に線を引くよう促し、それを引用しながら自分の感想を書けるようにする。 ○写真や図、表に着目した児童には、対応する本文に線を引くよう促し、感想につなげられるようにする。 ☆興味をもったことにそって紹介するために、必要な言葉や文を文章中から引用している。 （ノート、発言）
	3・4	○リーフレットを作って紹介するために、興味をもったことにそって「ウミガメの命をつなぐ」を要約することができる。 ・教科書の「ここが大事」から要約の仕方を知り、興味をもったことを中心に大事な言葉や文や組み立てをそのまま使ったり、自分の言葉で言いかえたりしてまとめている。		○教科書の要約例を提示し、紹介したい内容に絞り、簡潔に文をつないでいることを意識づけられるようにする。 ☆要約の仕方を理解し、書き出した言葉や文をもとに要約した文を書いている。 （発言、ワークシート）
		○「ウミガメの命をつなぐ」の要約文をもとに、リーフレットを作ることができる。 ・ワークシートをもとに興味をもったことが伝わるよう絵や文を見やすく		○モデルリーフレットを提示し、まとめ方を確かめながら進められるようにする。 ○教科書 P17 の要約と P18 の紹介文を提示し、要約文は常体で簡潔に書き、

	5・6	配置し、リーフレットにまとめている。 ・視点をもとに紹介文を読み返し、必要に応じて修正する。 【要約文文末例】　【紹介文文末例】 ・ハワイの近くまで流される。 → ・ハワイの近くまで流されます。 ・ハワイの近くまでもるくつうだ。 → ・ハワイの近くまでもるくつうです。	読書	紹介文は相手を意識して、敬体で書けるようにする。 ○書き終えた児童には、以下の視点を提示し、紹介したい内容が分かりやすく書いているか確認できるようにする。 【わかりやすくするための視点】 ・内容ごとのまとまりになっている。 ・まとまりのつながりが明確になっている。 ・要約文に関しては文章を正しく引用できている。 ☆興味をもった点がはっきり分かるように題名をつけたり、要約した文章を取り入れたりして、リーフレットを作っている。　（リーフレット）
	7	○「ウミガメの命をつなぐ」の要約文をもとに作ったリーフレットを紹介し、感想や紹介したい地球の仲間について交流し合い、友達の紹介文のよさに気付くことができる。 ・並行読書を進めてきた本の中から紹介したい地球の仲間について交流する。 【予想される子どもの感想例】 ・ウミガメがどんな旅をするのかを短くまとめている。 ・名古屋港水族館のがんばりが伝わってきた。 ・写真やイラスト、図があることで名古屋港水族館の研究がよくわかることが伝わってきた。 ・興味をもったところも違っていて、同じ文章を読んだのに感想も一人一人違って楽しかった。		○以下の視点を提示し、友達の紹介文のよさに気付けるようにする。 【内容】 ・どこに興味を持ったのかが、わかりやすく書いてある。 ・興味をもったことに合わせて要約できている。 ・興味をもったことにふさわしい感想になっている。 【形式】 ・同じ内容のまとまりになっている。 ・まとまりどうしがわかりやすくつながっている。 ・引用する場合、適切に本文から抜き出している。 ☆紹介文を読み合い、要約の仕方や文章の内容など、友達の紹介文のよいところを見つけている。 （話し合い、ノート）
三	8・9	○並行読書を進めてきた本の中から、自分が紹介したい地球の仲間の内容を交流することができる。 ・初めて知ったことや驚いたことの文章を引用しながら相手に説明する。 ○自分が紹介したい興味をもった地球の仲間について、文章を要約したり引用したりしながら、リーフレットにまとめることができる。 ・初めて知ったことや驚いたことが読み取れる語や文を引用し、リーフレットに書く。 ・ワークシートをもとに興味をもったことが伝わるよう絵や文を見やすく配置したり、初めて知ったことや驚いたことに関するクイズを加えたりして、わかりやすく楽しいリーフレットに仕上げる。		○交流する場を設定することで、並行読書の中から紹介する本を選択できるようにする。 ☆交流を通して、リーフレットを作ることへの意欲を高めている。 （観察、ノート） ○「ウミガメの命をつなぐ」のリーフレットを作る際のわかりやすくするための視点を提示し、わかりやすくまとまっているか確認しながら進められるようにする。 ☆わからない言葉は辞典で調べながら読んでいる。 （観察、シート） ☆興味をもった点がはっきり分かるよう、リーフレットを作っている。 （リーフレット）
	10	○リーフレットを紹介し合い、感想を交流することができる。 ・友達のリーフレットを読み、感想を伝え合う。		○完成したリーフレットは展示し、自由に読んだり感想を書いたりして交流できるようにする。 ☆作成したリーフレットを活用しながら紹介し、友達の良いところを伝えている。　（発言、シート）

具体的な取組

2　国語科と関連を図りながら取り組む言語活動

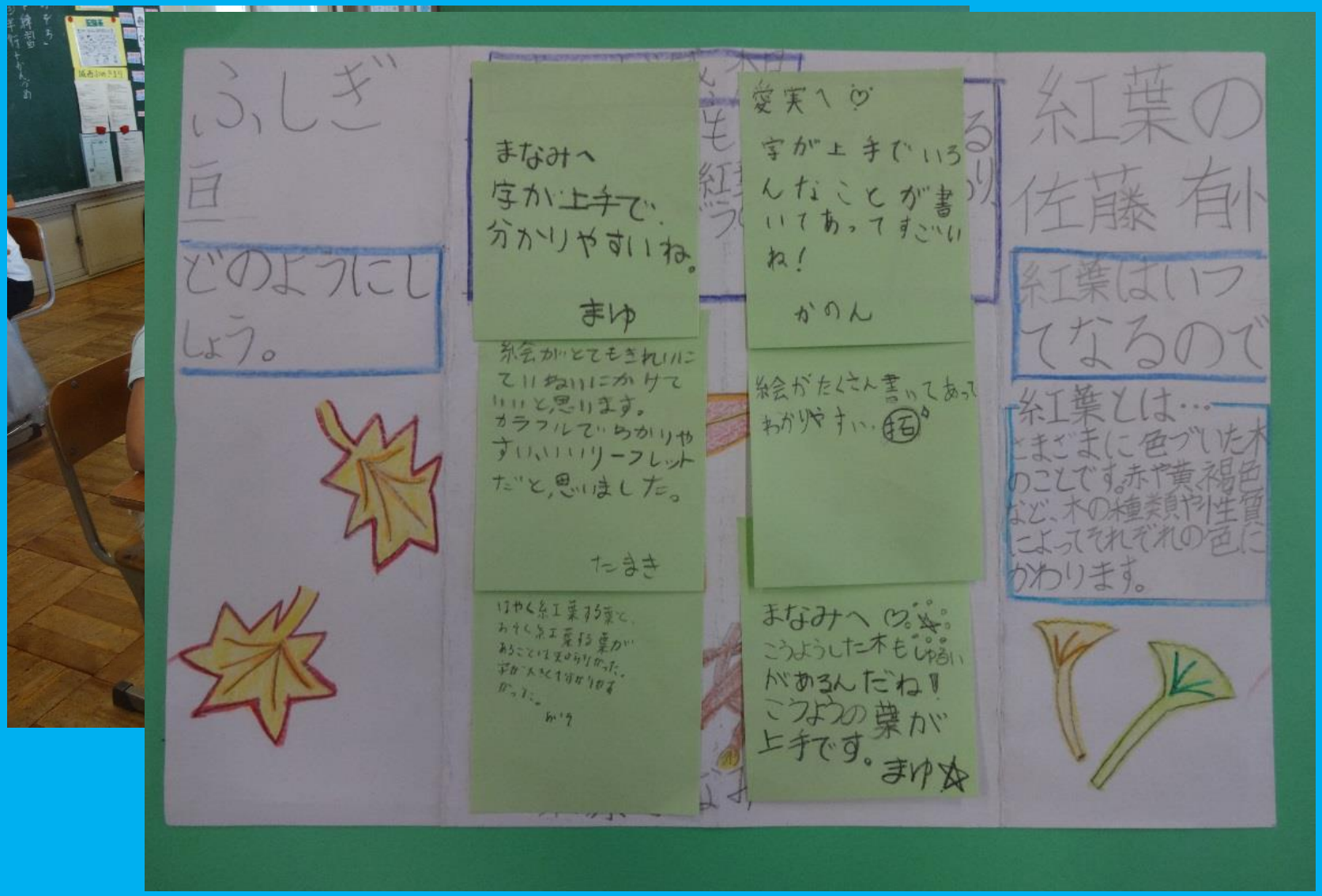
・単元を貫く言語活動に迫るための単元構想案の作成・実践



具体的な取組

2　国語科と関連を図りながら取り組む言語活動

・単元を貫く言語活動に迫るための単元構想案の作成・実践



具体的な取組

3　全員参加の授業　支持的風土のある学級づくり

具体的な取組

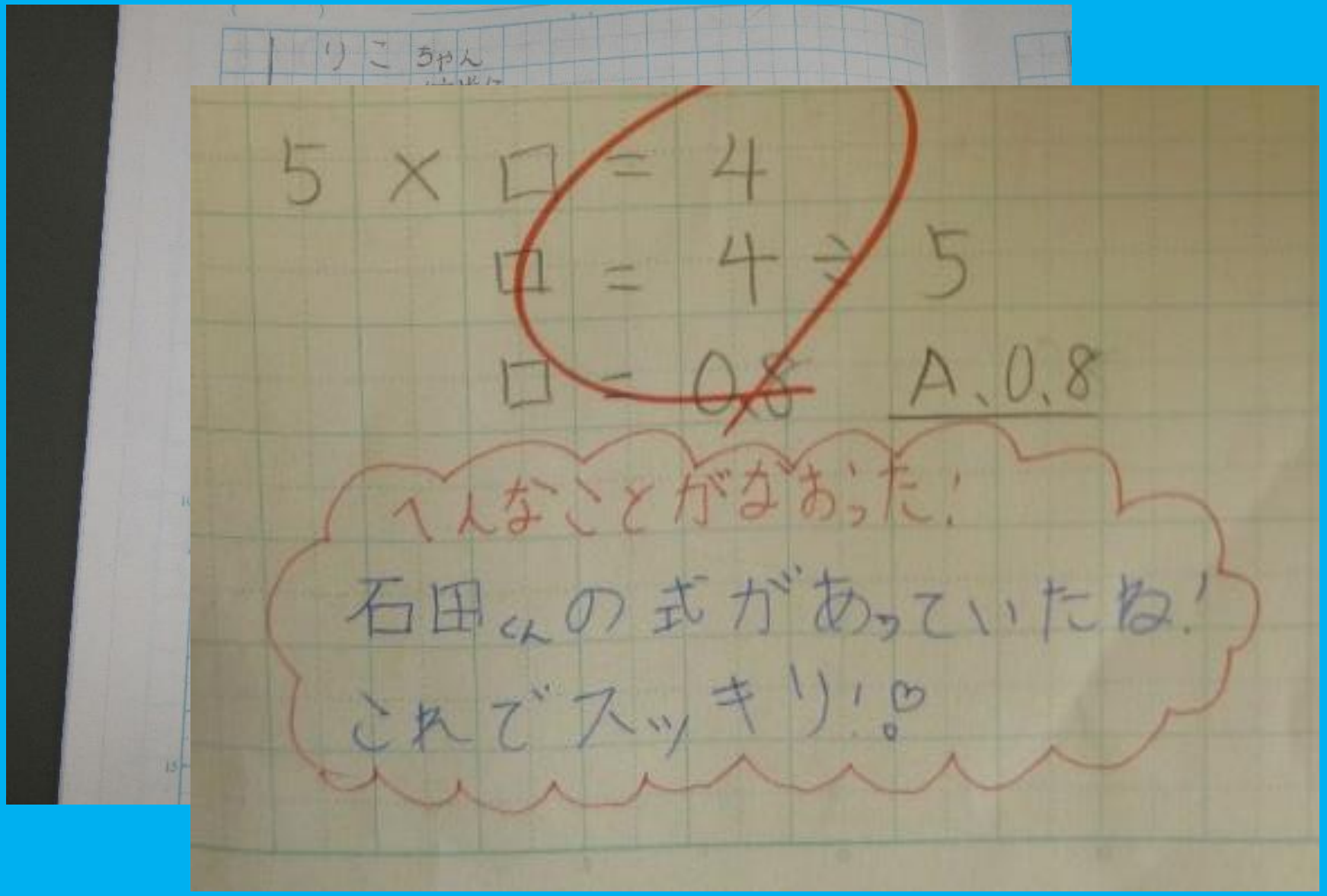
3　全員参加の授業　支持的風土のある学級づくり

具体的な取組

3　全員参加の授業　支持的風土のある学級づくり

具体的な取組

3　全員参加の授業　支持的風土のある学級づくり



具体的な取り組み　家庭・地域との連携

４　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

①　家庭学習の習慣化

・『家庭学習のすすめ』

家庭学習の手引き

家庭学習のすすめ～城西小学校～

☆まず続けることが大切です。学年の目安の時間を目標に、机に向かう習慣をつけましょう。

こんなものを

家庭学習の継続によって、「基礎学力」を確かなものにすることができ、「自ら学ぶ習慣」をつけることができます。

1．学習時間

「１０分＋１０分×学年」を目安に、家庭学習が行えるようになって欲しいと思います。机に向かう習慣をつけることが大切です。家庭学習に１年生から取り組み、学年が上がるにつれて徐々に時間を増やしていきましょう。（宿題をする時間も、以下の時間に含めます。）

☆ 1年生	（20分以上）	☆ 4年生	（50分以上）
☆ 2年生	（30分以上）	☆ 5年生	（60分以上）
☆ 3年生	（40分以上）	☆ 6年生	（70分以上）

※　中学１年生では、２時間以上必要だといわれています。

家庭学習は時間の多少にかかわらず、毎日続けることに意味があります。お子さんの「やる気」「自主的な取り組み」を認めて、励ましていただければと思います。上記の時間は、あくまで目安ですので、お子さんにあった時間を話し合ってください。

2．学習の開始・終了時刻の決定

毎日同じ時間帯に学習することで、生活のリズムを身につけるようにします。曜日ごとに決まっている塾や習い事がありましたら、その時間帯を考慮し親子で学習計画を立ててみてはいかがでしょうか。

3．学習内容

まず最初に学校の宿題をしましょう。次に、「自学」に取り組みましょう。
基礎学力の定着のために、各学年で例を示しています。それを参考にして学習内容を考え、学習の計画を立てるようにしましょう。

☆　毎日取り組むとよい学習。
「音読」「漢字練習」「計算」など続けることにより高い効果を生む内容です。
宿題として出されています。

☆　時間のあるときにやるとよい学習。
「読書」「問題集・ドリル」「予習や復習」など自分の好みに合わせて取り組むとよい内容です。

☆学習環境づくりは家庭と学校で☆

＊＊＊　生活時間の見直しと環境の整え方　＊＊＊

一日の生活リズムについて、家庭で話し合いましょう。

①「学校から帰宅する時刻」または、「スポーツ少年団や習い事から帰宅する時刻」から「就寝時刻」までの、家庭における生活時間帯がどれくらいあるか曜日ごとに洗い出します。
②　毎日の生活時間の中に食事や入浴などの時間を設定します。
③　どうしても見たいテレビ番組については親子で話し合い、生活時間帯の計画に入れます。
④　残りの時間帯の中から、学習時間帯を決めます。（※読書の時間も入れるとよいですね）
⑤　余った時間は子どもの好きなことに、自由に使える時間として保証しましょう。

学校での取り組み

学校では家庭学習について、各学年で統一した考えの基で指導を行います。家庭学習の様子は学級や授業等で情報を交換しながら家庭と連携を深め、柔軟に対応していくようにします。

☆見届けのポイント☆

・よくできているところや努力したところをほめます。
・子どもの取り組みの良いところを紹介します。

※計算の自学をした場合は、解答のあるものはマルつけをしてから提出してください。

家庭での取り組ませ方

1．学習への意欲を持たせるためには

①　学習を始める時間がきたらテレビのスイッチを切ります。
②　まず宿題に取り組ませ、次にすぐに取りかかれるやさしい学習（本読みなど）から始めます。
※低学年では、親がそばにいることが大切です。夕食のしたくの時などに近くのテーブルなどでやらせるのも一つの方法です。やったという事実をほめるようにしてください。
③　途中でつまづいたり、分からない問題は後回しにし、翌日担任に見てもらうようにしてください。（家で「分からないので教えてください。」と書いてはどうでしょう。）

2．学習に集中させるには

①　食べながら、飲みながらは避け、しゃべらないで学習する約束をしましょう。
②　あらかじめ「終わり」の時刻を知らせ、守らせるようにしましょう。

具体的な取り組み　家庭・地域との連携

４　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

①　家庭学習の習慣化

・『家庭学習の手引き　各学年』

例：４年生

家庭学習の手引き（４年生用）

１　学習時間のめやす（どれくらいの時間にするか）

☆　4年生　……　50分程度

※一日のうちで、決められた時間は机に向かう習慣をつけましょう。

２　学習の始めと終わりの時刻

☆「家庭学習のすすめ～城西小学校～」をよく読み、自主的に計画を立てて学習しましょう。

※休みの日は午前中にすませましょう。

☆　曜日ごとに、学習の始めと終わりの時刻を決めましょう。

学習のはじめ		学習の終わり	
時	分	時	分

～

※テレビのチャンネルを切って、静かな場所で集中して学習しましょう。

３　自主学習のメニュー　（自主学習ノートを使いましょう）

★1cm 方眼のノートを年度当初に購入済み。

★国語の内容の時はたて書き、社会や理科、算数などの内容の時は横書きにしましょう。

☆まず宿題に取り組みます。

☆宿題がおわったら、自主学習ノートを用い、次のような学習をやりましょう。

例えば・・・

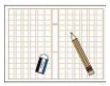
（１）授業日記メニュー

①今日の授業のまとめ

②今日の授業で分かったこと、分からなかったこと

③今日の授業の感想、言いたかったこと　など

（２）文章力アップメニュー



①スピーチ原稿を書いてみよう

②自己紹介

③家族紹介

④今日のありがとう（だれに、どんなことで？）　など

（３）基礎学力アップメニュー

〈国語〉

①国語の教科書で勉強している話を写す。

②漢字スキルの左ページで勉強している漢字を３回ずつ写す。

③国語辞典を使って今勉強しているところの意味を調べる。

〈算数〉

①算数の教科書や計算スキルで、勉強している計算をする。

②勉強しているところの問題を自分で作ってやってみる。　など

（４）興味・関心メニュー

①調べ学習をする。（たとえば、花のつくり、虫の体の仕組みなど）

②今勉強しているところの本の話の続きを書く。

③算数のおもしろいきまりや自分で実際にやってみたことをまとめる。

④インターネットで調べたものに、自分の感想や分かったことを書き加える。

など

◆保護者の方へ◆

＊中学年になったら親は、始めから終わりまでそばについている必要はありませんが、途中経過を見たりしてどんなことをやっているかを把握しておく必要はあります。文字が乱暴になってしまったり、答えや文字がまちがっていたりしても、なおすことができるからです。

＊自主学習に取り組むなかで、的はずれなことをしてしまうこともあるので本人の自主性を大切にしながら、ちょっとしたアドバイスをお願いします。

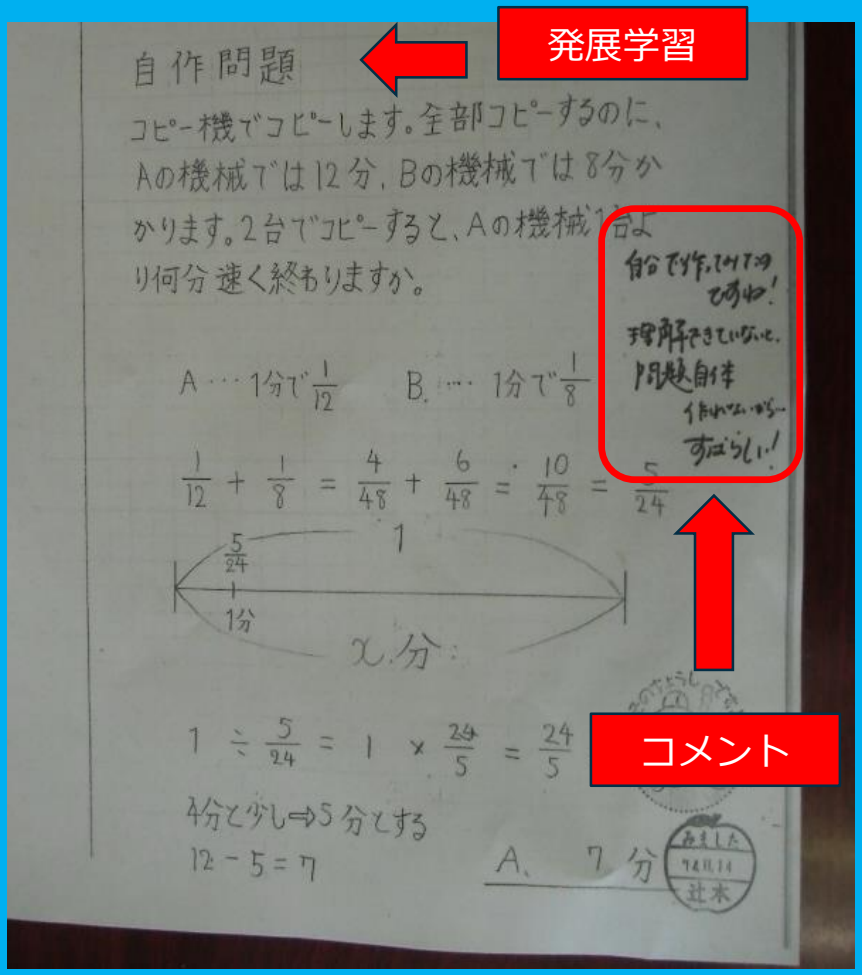
＊インターネットで調べ学習をする時など、まだ自分が必要な情報を選び出すことは、難しいので道案内などをしてあげてください。

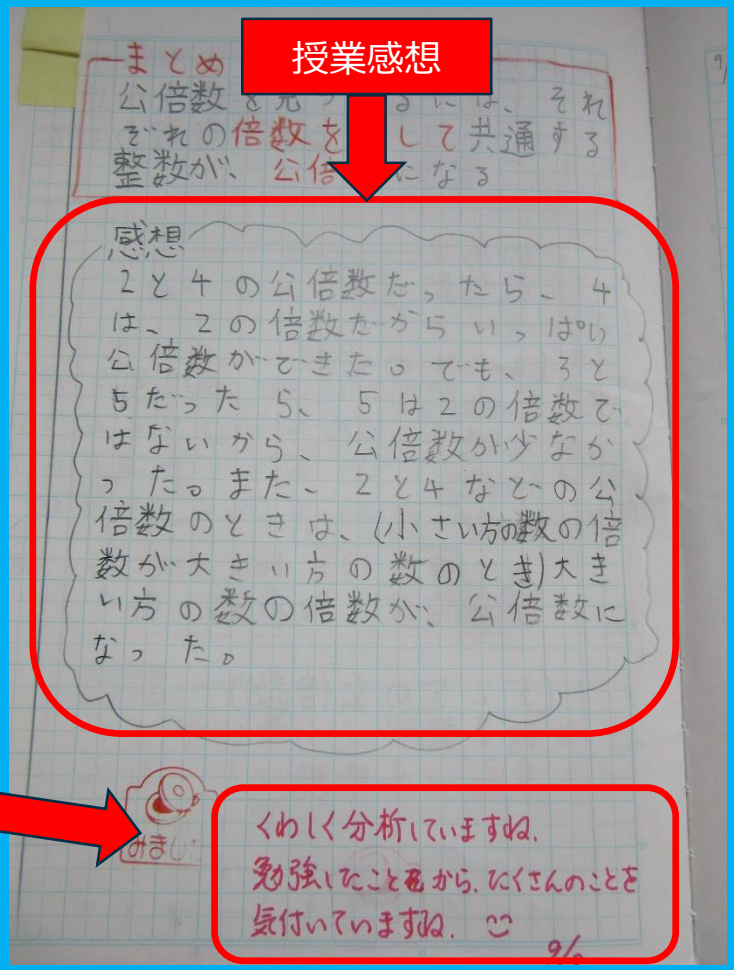
具体的な取り組み　家庭・地域との連携

4　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

②　全校での宿題の統一　漢字練習、音読練習、算数学習

自主学習　授業の振り返り、感想、自作問題、興味のある学習等





具体的な取り組み　家庭・地域との連携

4　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

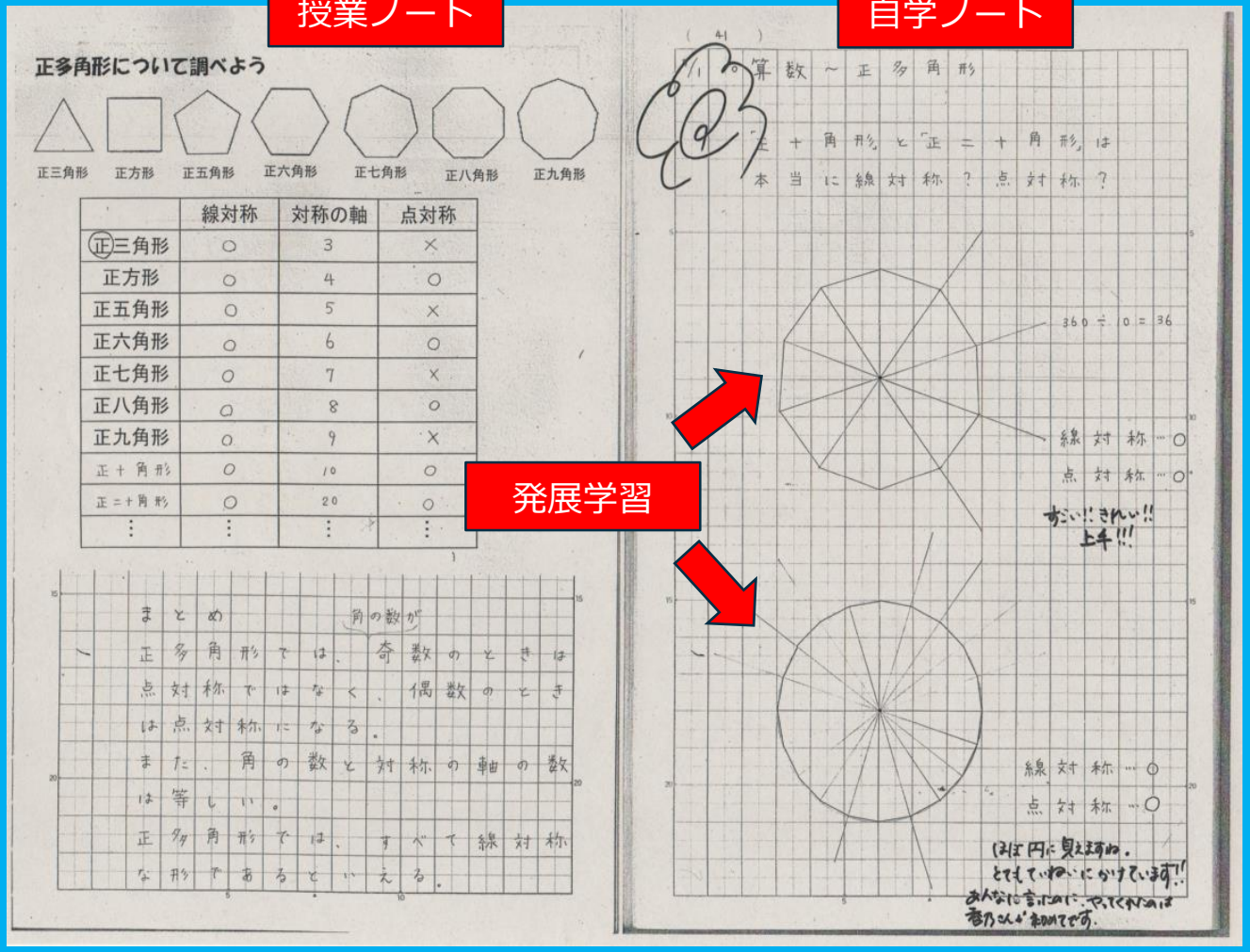
②　全校での宿題の統一　漢字練習、音読練習、算数学習

自主学習　授業の振り返り、感想、自作問題、興味のある学習等

授業ノート

自学ノート

発展学習

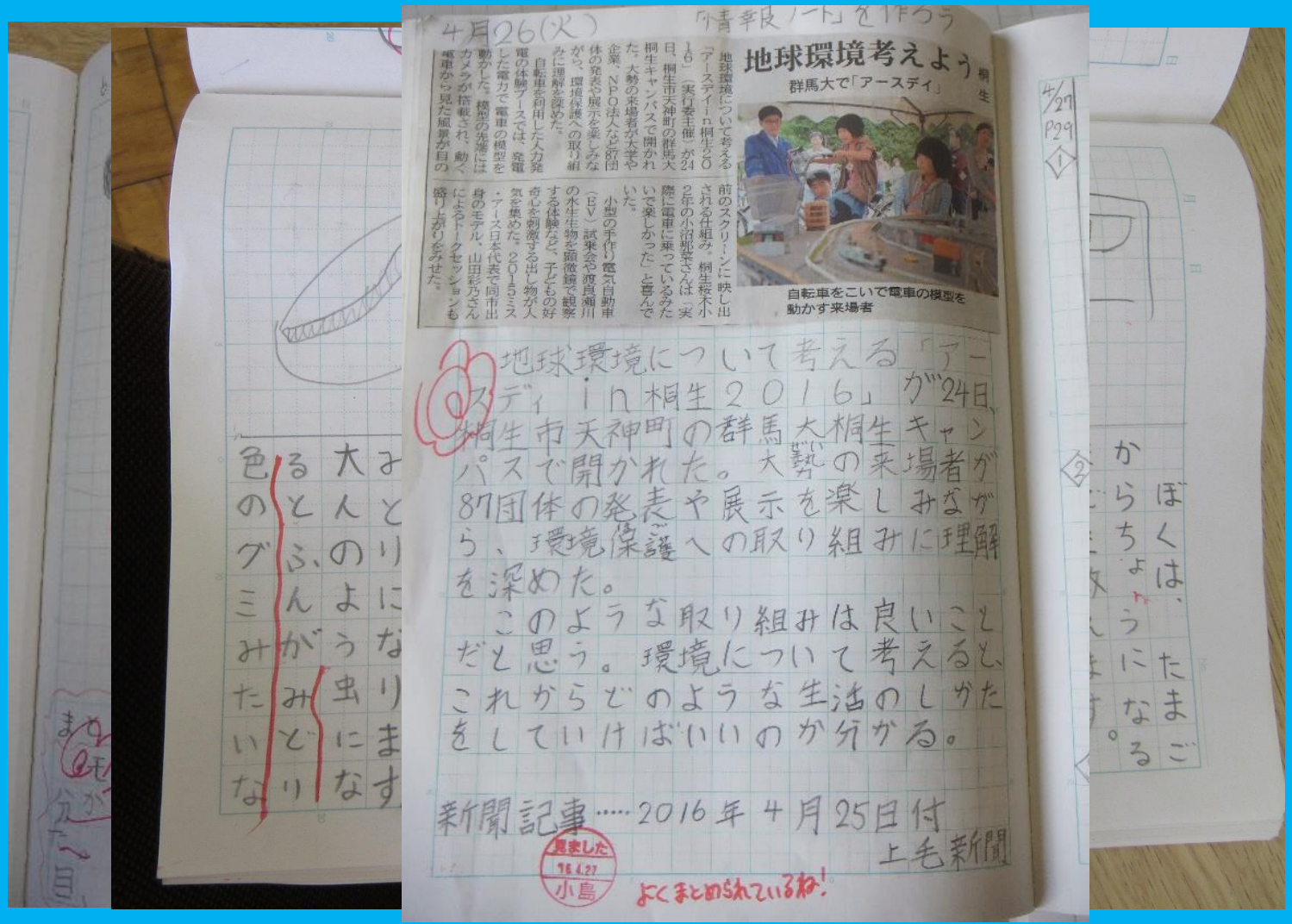


具体的な取り組み　家庭・地域との連携

4　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

②　全校での宿題の統一　漢字練習、音読練習、算数学習

自主学習　授業の振り返り、感想、自作問題、興味のある学習等



4月26(火)

地球環境考えよう　桐生

群馬大で「アースデイ」

自転車をこいで電車の模型を動かす来場者

地球環境について考える「アースデイin桐生2016」が24日、桐生市天神町の群馬大桐生キャンパスで開かれた。大勢の来場者が87団体の発表や展示を楽しみながら、環境保護への取り組みに理解を深めた。

このような取り組みは良いことだと思う。環境について考えると、これからどのような生活のしかたをしていけばいいのか分かる。

新聞記事……2016年4月25日付　上毛新聞

見ました　'16.4.27　小島

よくまとめられているね！

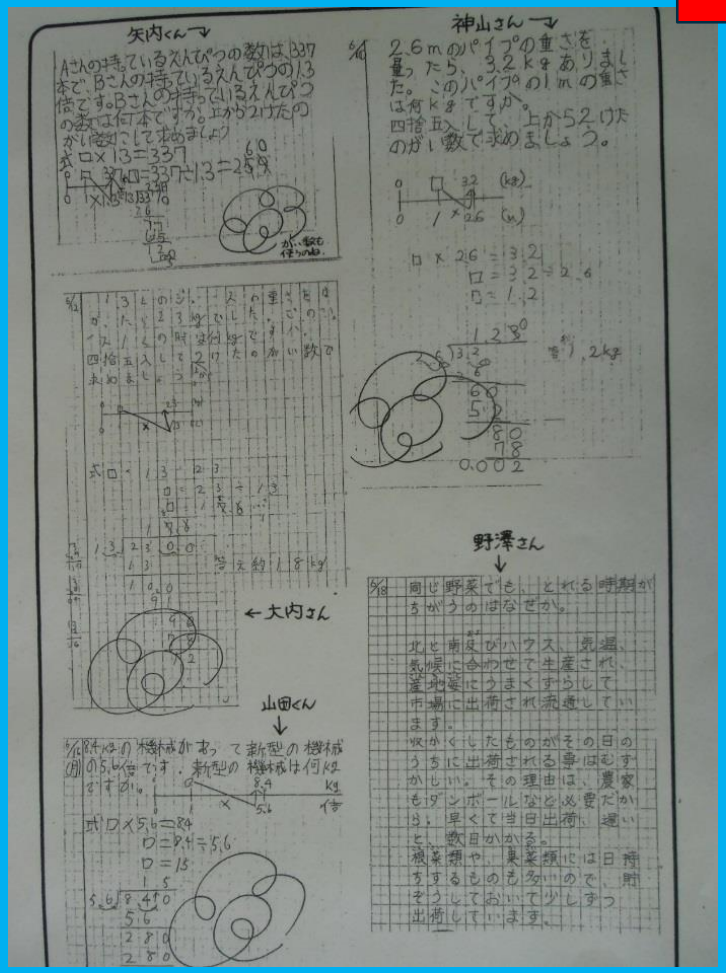
具体的な取り組み　家庭・地域との連携

4　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

②　全校での宿題の統一　漢字練習、音読練習、算数学習

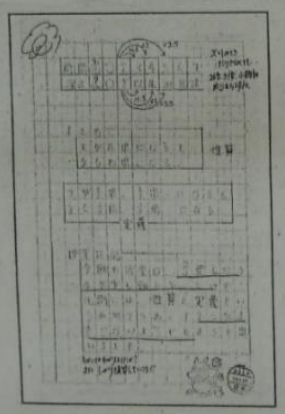
自主学習　授業の振り返り、感想、自作問題、興味のある学習等

学級通信

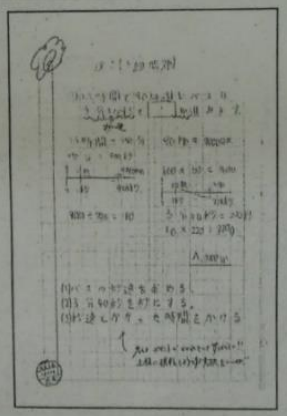


自主学習に取り組んでいます

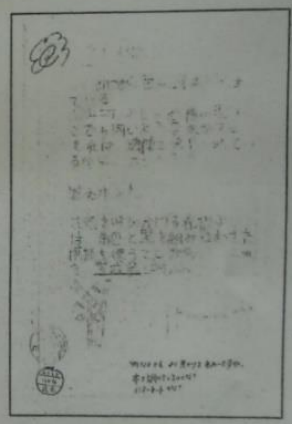
公開日には、子どもたちの日々の学習記録表をご覧いただきました。中学進学に向けて、宿題以外の学習への取り組みを、今後強化していきたいと思います。これまでも、毎日コツコツ取り組んできているよいノートを紹介します。



（嶋田　萌々さん）



（武藤　芽さん）



（松島　凛佳さん）

授業で学習したことをもう一度まとめて、感想や気づいたこと、わかったことなどをまとめています。また、アイテムや通信教材等の発展問題に挑戦しています。自分で興味のあることを本やインターネットで調べて、紹介しています。毎日、挑戦し、自身を成長させていってほしいです。今後も紹介していきます。

具体的な取り組み　家庭・地域との連携

４　学びの基盤つくり　安心感と落ち着きのある環境を

②　全校での宿題の統一　漢字練習、音読練習、算数学習

自主学習　授業の振り返り、感想、自作問題、興味のある学習等

学級掲示板

授業力の向上

ー学び合う研修ー

授業力の向上　－学び合う研修－

①　前年度までの研修の振り返り

授業力の向上　－学び合う研修－

②　全体研修主題と個人テーマ　『構想→中間報告→まとめ』

個人研究構想表

個人研究中間報告

個人研究構想表

学力向上　大塚　友香

校内研修のテーマ

思考力・表現力を身につけた児童の育成
－算数科における言語活動の充実を中心として－

＜自己の研究課題＞

（1）**言語活動の充実**
集団解決の場において、根拠を基にして答えが導かれた方法の説明ができ、各々の解決方法を理解し、共通点に気付ける児童を育てる。
（2）**学びの基盤作り**
①自分の考えや友だちの説明から得た解決方法、問題を解くためのポイントを意識したノートを作り、学習の積み重ねができる児童を育てる。
②必要感を感じる「問い」や発問を開拓したり、思考の流れが分かりやすい板書を工夫したりし、目的意識をもって筋道立てて考えられる児童を育てる。

＜課題解決がなされたときの姿＞

（1）**言語活動の充実**
・友だちの説明から新しい考えを知ったり、自分と友だちの解決方法を比較して共通点を探ったりすることができ、似た問題についてよりよい方法で解くことができる。
（2）**学びの基盤作り**
①基にした既習事項を生かしながら、新たな考えや解決方法を理解し、身に付けることができる。
②毎時間のめあてを達成することで、正確な手順や方法で課題解決に向かって取り組むことができる。

＜課題解決に向けての具体的な手立て＞

（1）**言語活動の充実**
・相手意識をもった説明となるように、隣どうしのペアで解決方法を説明する活動を設定する。
・同じ問題を自分の解決方法と異なる方法で解く時間を設定する。
・思考過程や解決方法の根拠が共通理解できるように、半具体物などを操作したり、言葉、図、表、グラフを用いて表現したりする活動を設定する。
（2）**学びの基盤作り**
①授業で、気付いたことや考えたことを吹き出し等を使って板書し、吹き出し等の使い方を示す。
②子どもの思考の流れを想定し、つまずきやすいところを予想しながら、単元を通しての板書指導案、発問の計画や工夫をし、必要に応じて操作できる半具体物などの教材を開発する。
②毎時間ごとに、めあてが達成できたかを振り返れるよう、子どもの自己評価を実施する。

＜スケジュール＞

月	課題解決のための取り組み		
	言語活動の充実	学びの基盤作り ①	学びの基盤作り ②
4		・児童へのノート指導	・「板書指導案」の作成・授業実践
5	・隣どうしのペアで解決方法を説明する場の設定 ・半具体物などを用いて解決方法を説明する場の設定		・めあて達成につながる発問の計画や工夫
6	・指導経過の分析	・見やすく、工夫したノートの紹介	・めあてが達成できたか子どもの自己評価の実施
7		・ノートの振り返り	・子どもの自己評価を手がかりにした個別の指導の実施

個人研究中間報告

学力向上　大塚　友香

校内研修のテーマ

思考力・表現力を身につけた児童の育成
－算数科に

＜自己の研究課題＞

（1）**言語活動の充実**
集団解決の場において
の解決方法を理解し、共
（2）**学びの基盤作り**
①自分の考えや友だちの
したノートを作り、学
②必要感を感じる「問い
工夫したりし、目的意

＜１学期の実践内容＞

月	（1）言語活動
4	発言や発表する場を
し、自分の意見や考え
うにした。 自力解決の仕方につい
し合う時間を設定し、
えたり、集団解決での
たりできるようにした。
5	集団解決の場で説明
棒を用いて顔を聞き手
し、相手意識をもって
にした。 友だちの考えを引き
説明を取り入れ、前に
とへの抵抗感を減らす
「角の大きさ」の単
ながら説明するよう促
の変化や 180°より大
考えが２通りある（180
－△）ことについて理
にした。
6	「わり算の筆算」の
ードを用いて操作しな
ら分け、その考えを式
と筆算の共通点に気付
工夫し、筆算のしくみ
ものになるようにした。
7	

＜１学期末の児童の姿＞

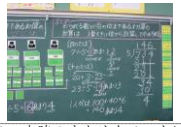
（1）　考えの違うところを焦
いながら説明するよう促
したりしやすくなり、活
（2）　前時の学習では解決で
いことを明確にできたり、
もてるようになったりし、

＜これからの具体的な課題解決

（1）・根拠を基にして答えが
年で共通理解し、例や
・自力解決では、たどり着
適用問題に取り組む時
（2）①問題を解くためのポイ
書きでもよいのでノー
する。
②子どもの解決方法を引き

＜授業実践例＞

（1）単元名　わり算のしかたを考えよう
（2）本時の学習
①ねらい　３位数÷１位数（各位ともわり切れない、及び一の位でわり切れる）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。
②展開

学習活動	主な発問と児童の反応
1　学習課題をつかみ，解決方法の見通しを立てる。 めあて わられる数が 100 の位までであるわり算の計算の仕方を考えよう。	問：７３４枚の色紙を５人で同じ数ずつ分けます。１人分は何枚になって、何枚あまりますか。 C：赤、青チェックをして、それからテープ図を書く！ T：テープ図から何が分かるの？ C：式！７３４÷５になる！ T：今までとどこがちがう？ C：今までは、わられる数が十の位までだったけど、今日は百の位まであるよ。でも、今までの（わられる数が十の位まで）のやり方が使えるんじゃないかな？ T：じゃあ、今日のめあては？言葉をください。 T：だいたい、１人何枚くらいになるかな？ C：100 枚より多くて、200 枚より少ないかな？
2　734 ÷ 5 の計算の仕方を図や言葉，式を使って考え，１人分の枚数とあまりを求められるよう，自力で解決に向けて取り組む。 	T：まず、どうやって分ける？ C：100 の束から１人に１束ずつ分ける。 T：100 の束は、もう分けられないよ。どうする？ C：両替する！（両替した 10 の束を含めた 23 の 10 の束を５人に分ける。） T：今のところ、１人に何枚分けられるの？ C：140 枚！ T：残りは何枚？ C：34 枚！これは計算できるよ。34 ÷ 5 = 6 あまり 4 T：今まで分けたことも、式で表せないかな？ （自力解決）
3　734 ÷ 5 の計算の仕方を図や言葉、式を使って説明し合い、それぞれの考え方の共通点を見つける。 	T：どんな式で表せたか、紹介してくれませんか？ C：７÷５＝１あまり２ T：これは、どんなことを表しているの？ C：７つの百の束を５人で分けて、百の束が１束ずつ分けられて、百の束が２つあまったこと。 この後、10 の束で分けた 23 ÷ 5 = 4 あまり 2、ばらで分けた 34 ÷ 5 = 6 あまり 4 の式を出し、その意味を確認した。その後、それぞれの位の商を足し、１人分の枚数は、100 ＋ 40 ＋ 6=146　あまり 4 と解決した。 T：筆算で計算するとどうなるのかな？ 子どもは、筆算の中に束ごとに計算した式が表れているのに気付き、「あ～！」「なるほど～！」「筆算は一気にできて便利だ！！」と声に出していた。
4　本時のまとめをノートに書く。 まとめ わられる数が 100 の位までであるわり算の計算は、百の位からわり算をして筆算で計算することができる。	T：今日の授業で、どんなことが分かったの？ C：一番大きい位から分けていった。 C：百の束から分けて、足りなくなったら両替して、次に十の束で分けていって、また分けられなくなったらばらにして分けた。 C：筆算で、その足跡が分かったよ。 C：筆算って、便利だね。
5　適用問題に取り組む。	取り組む時間を作り出せませんでした。※反省事項

（3）考察
本時は、半具体物を用いた操作的活動により実感を伴って解決したことを式に表し、更にその考えが筆算の中にも表れていることに気付くことで、筆算の理解を確かなものにするねらいに迫れるようにした。筆算の中に、本時の考えの足跡が見えた時、「なるほど～！」と声が出て、納得し、筆算の便利さに気付いた様子だった。適用問題の時間が確保できず、時間配分に課題が残った。

参考文献：「算数的表現力を育てる授業」田中博史/東洋館出版

授業力の向上　－学び合う研修－

③　授業を参観し合う　『一人一授業』（年２回）等

『初任研・示範授業』

授業力の向上　－学び合う研修－

③　授業を参観し合う　『模擬授業』

授業力の向上　－学び合う研修－

③授業を参観し合う　振り返り

授業力の向上　－学び合う研修－

④　講師を招いての研修

授業力の向上　－学び合う研修－

⑤　夏休み　『ミニ講座』

授業力の向上　－学び合う研修－

⑤　夏休み　『ミニ講座』

授業力の向上　　－学び合う研修－

⑥　研修報告

授業力の向上　－学び合う研修－

⑦　板書の工夫

授業力の向上　－学び合う研修－

⑧　ノート指導・・・児童のノートを見合う機会（学期に１回）

「確かな学力」の研究推進校として

○学びをつなげる

学年や指導者がかわっても子どもたちが戸惑うことなく、その子の学びが６年間しっかり積み上げられていくよう学びをつなげていくことが大切です。

○授業力の向上

子どもたちの学びの意欲を高められるよう、校内研修を中心に一人一授業など実践を通して授業力の向上を図っていきたいと思います。

○積極的な授業参観

全職員が先生方の授業をできるだけ参観し、よりよい授業づくりにつながるように努めていきたいと思います。

○指導上の課題を共に考え合う城西小

先生方が共に、一緒に指導方法を考えていくことで同じ歩調で指導できるようにしていきたいと考えています。これからも校長先生や教頭先生からご指導をいただきながら、全職員が同じ方向で実践していけるよう努めていきたいと思います。